

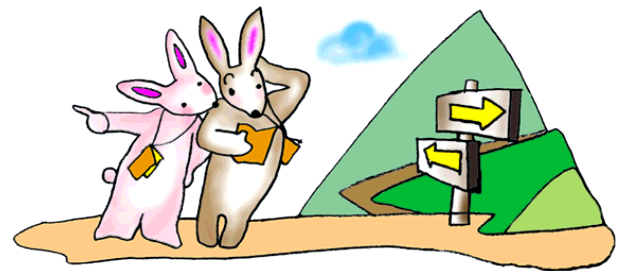
初期対応について考える

茨城県水戸教育事務所長 太田 雅彦

「初期対応をもっとしっかり行っていれば、こんなに重大な事案には至らなかった。」という話をよく耳にしています。そこで、今回、初期対応について改めて考えてみたいと思います。

初期対応を進めるうえでは、

- ⑤ 最悪を想定して
- ⑤ 慎重に
- ⑤ 素早く
- ⑤ 誠意をもって
- ⑤ 組織で対応



することが基本です。特に、当事者の不安な気持ちを想像しながら、誠意をもって対応することは極めて重要です。

初期対応のうち、まず初めに行う事実確認ですが、本人だけではなく、相手や周囲からの確認も必要となります。その際、時間や場所の確保、対象が複数の場合は分担し、同時進行で迅速に対応することも大切です。さらに、5W1Hに沿って正確に記録し、管理職等への漏れの無い報告が重要となります。

次に対応方針を決め、役割を分担して組織で対応することになりますが、組織対応の場合、例えば「寄り添う」という対応一つをとっても、誰もが同じイメージをもつことができるように、具体的な行動レベルで確認し共有する必要があります。

また、保護者への対応についても配慮が必要です。まずは、その日のうちに、関係する保護者に対して、確認できた事実をしっかりと伝えとともに、不安を解消するためにも、今後の学校の対応方針は丁寧に説明する必要があるでしょう。「自分が親だったら」という想像力を働かせ、真摯な姿勢でやり取りをすることが大切になります。さらに、一度連絡をした後、次の連絡までの期間を空けすぎないこともポイントです。電話での連絡でよいのか、訪問による説明なのか、学校として判断できるとよいでしょう。



こうした初期対応を学校の文化にしたい、そう考えています。